

# 京都市感染症発生動向調査 感染症週報

2023年第14週（4月3日～4月9日）

京都市感染症情報センター（京都市衛生環境研究所）

<https://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/41-6-0-0-0-0-0-0.html>

## ◆ 今週のコメント

京都市のインフルエンザの定点当たり報告数は1.29で、第5週のピーク(35.58)以降9週連続して減少しました。RSウイルス感染症の定点当たり報告数が1.29で例年より多く推移しています。全国では例年並みではありますが増加傾向が続いています。その他の小児科定点感染症では大きな変化はありません。山科区定点数に変更があり、インフルエンザ定点数(7→6)、小児科定点数(5→4)となりました。

## ◆ 主な定点把握感染症の報告状況（5類感染症）

定点種別	定点数	感染症名	定点当たり報告数		
			今週	前週	前々週
インフルエンザ	68	インフルエンザ	1.29	1.78	4.35
小児科 (多い順に5位まで)	42	1. 感染性胃腸炎	3.05	4.05	4.77
		2. RSウイルス感染症	1.29	1.23	1.00
		3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.76	1.16	0.77
		4. 突発性発しん	0.19	0.19	0.12
		5. 水痘	0.14	0.02	0.16
眼科	10	流行性角結膜炎	0.10	0.40	0

定点把握感染症の詳細は次ページ以降に掲載しています。

## ◆ 全数把握感染症の報告状況（第13週以前の追加報告分を含みます）

2類感染症 結核 4例（本年累積57例）

今週追加4例内訳(肺結核0例、その他結核2例、潜在性結核感染者2例) うち喀痰塗沫陽性0例

本年累積57例内訳(肺結核25例、その他結核16例、潜在性結核感染者16例) うち喀痰塗沫陽性9例

5類感染症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例（本年累積2例）

5類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 1例（本年累積9例）

5類感染症 梅毒 3例（本年累積28例）

新型コロナウイルス感染症 716例（本年累積40,678例）

## ◆ 今週のトピックス：梅毒

現在、日本における梅毒の報告数が急増しています。2022年の全国における梅毒報告数は13,225例と新感染症法施行以来最多でした。詳細をトピックスに掲載しています。

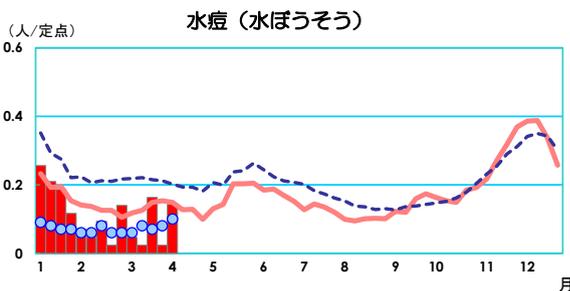
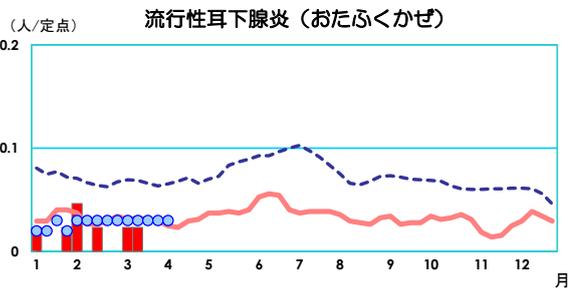
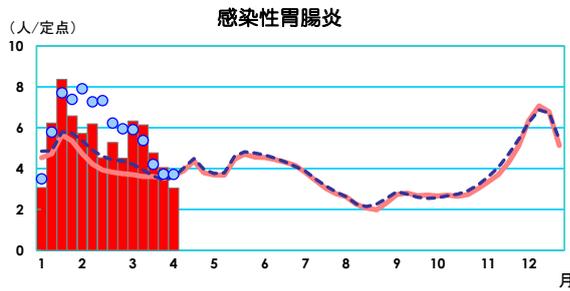
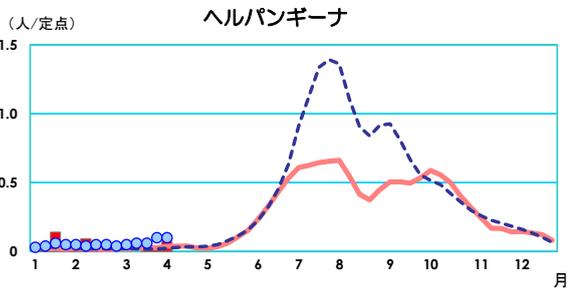
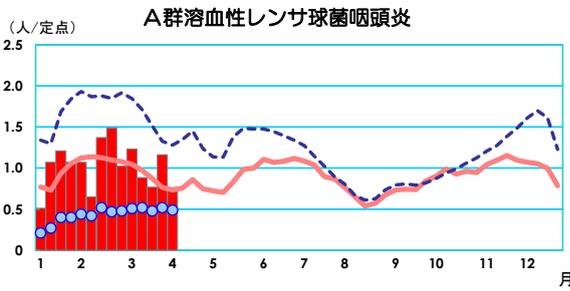
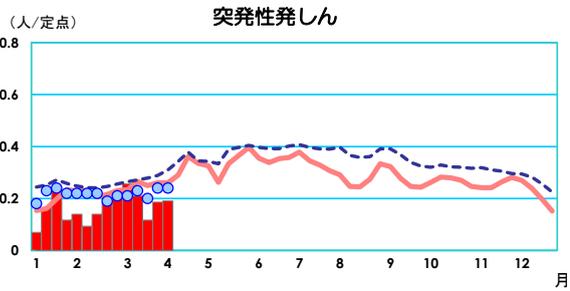
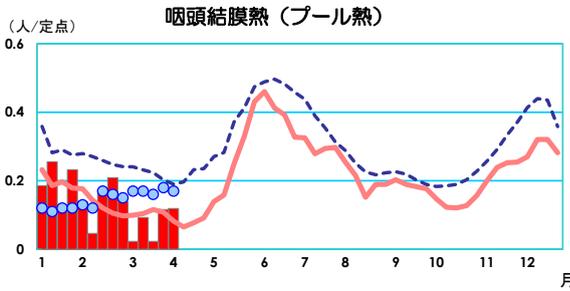
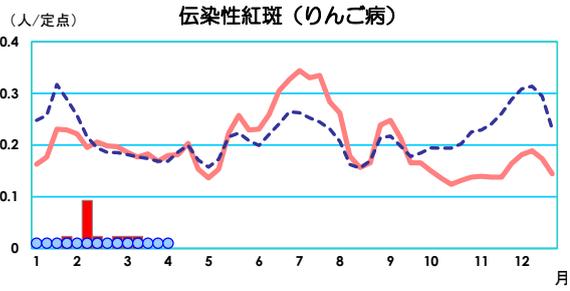
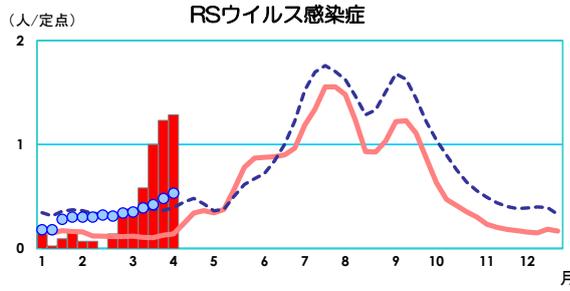
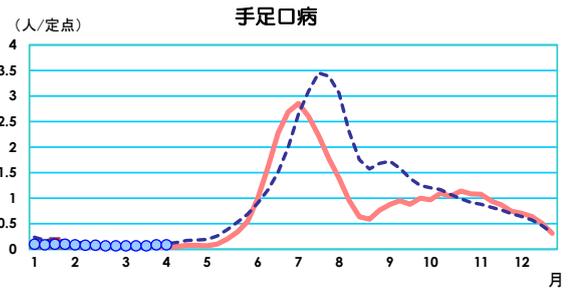
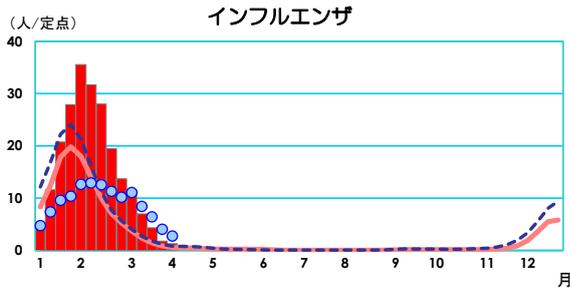
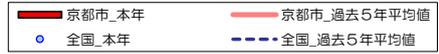
## ◆ 次ページ以降の内容

- ・インフルエンザ及び小児科定点把握感染症の疾病別推移グラフ
- ・インフルエンザ及び小児科定点把握感染症の発生状況地図
- ・全数把握感染症の感染症別月別発生状況
- ・トピックス
- ・インフルエンザ、小児科、眼科、基幹定点把握感染症の行政区別報告数、定点当たり報告数
- ・インフルエンザ、小児科、眼科、基幹定点把握感染症の年齢階級別報告数、定点当たり報告数
- ・インフルエンザ、小児科、眼科、基幹定点把握感染症の過去10週推移
- ・インフルエンザ、小児科、眼科定点把握感染症の全国推移

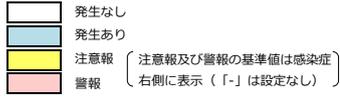
京都市のデータは、2023年4月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

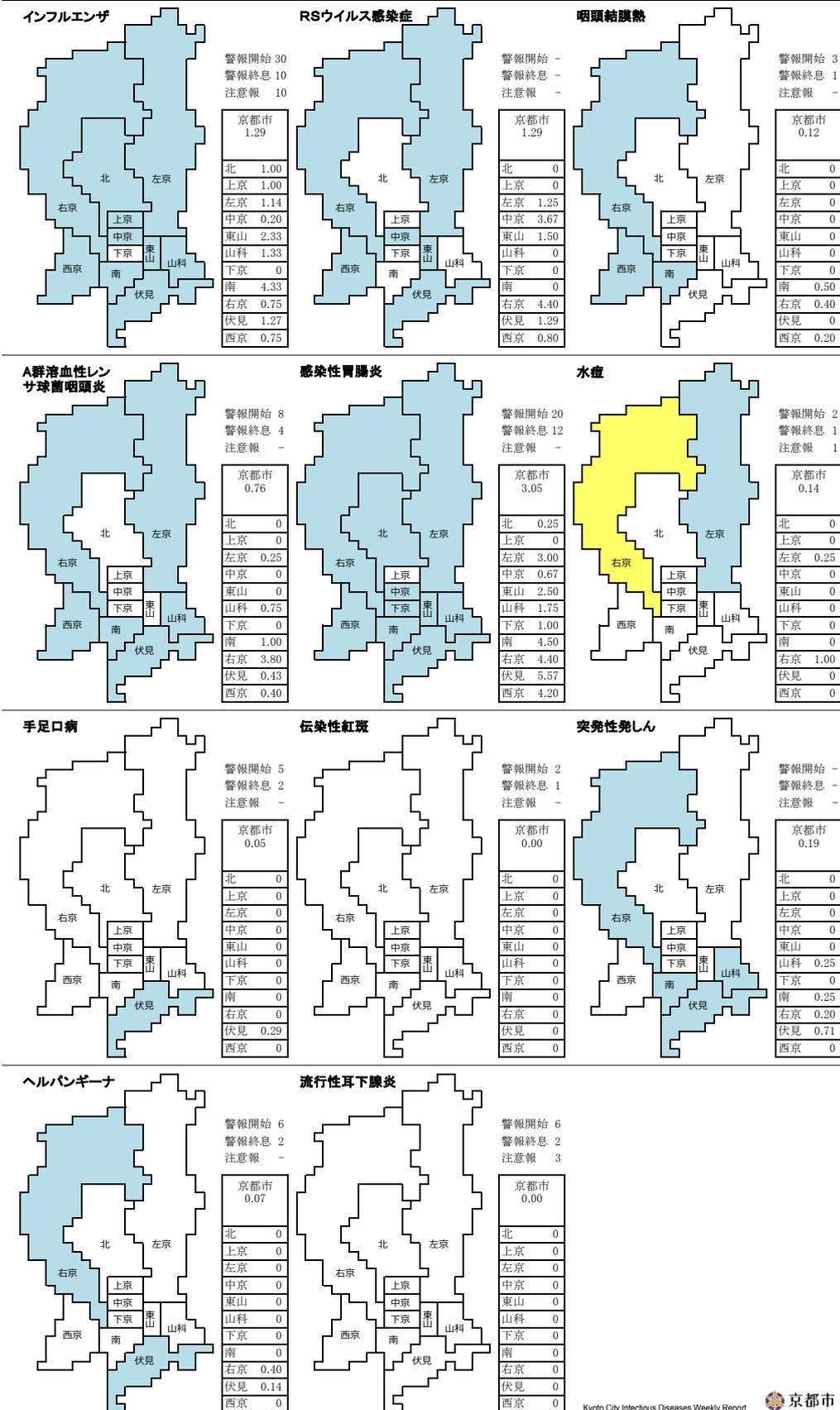
# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2023年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図 【2023年 第 14 週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果であり、立地条件や規模の大小の影響を受ける場合があります。  
 ※警報・注意報の目的は、公衆衛生上の資料として自治体衛生主管部门・保健所等の衛生行政機関専門家に  
 注意喚起することであり、広く一般に向けて発出されるものではありません。



2023年 全数把握感染症の月別発生状況（京都市）

集計期間：2023/1/1～2023/4/9

類別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2023年 累計	2022年 累計(参考)
急性灰白髄炎（ポリオ）														
2類														
結核	14	17	22	4									57	215
ジフテリア														
重症急性呼吸器症候群（SARS）*1														
中東呼吸器症候群（MERS）*2														
鳥インフルエンザ（H5N1）														
鳥インフルエンザ（H7N9）														
3類														
コレラ														
細菌性赤痢														1
腸管出血性大腸菌感染症	1		8										9	23
腸チフス														
バラチフス														
4類														
E型肝炎														1
ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)														
A型肝炎														1
エキノコックス症														
黄熱														
オウム病														
オムスク出血熱														
回帰熱														
キャサナル森林病														
Q熱														
狂犬病														
コクシジオイデス症														1
サル痘														
ジカウイルス感染症														
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）*3														
腎症候性出血熱														
西部ウマ脳炎														
ダニ媒介脳炎														
炭疽														
チクングニア熱														
つつが虫病														
デング熱														2
東部ウマ脳炎														
鳥インフルエンザ（H5N1・H7N9を除く）														
ニパウイルス感染症														
日本紅斑熱														
日本脳炎														
ハンタウイルス肺症候群														
Bウイルス病														
B型肝炎														
鼻疽														
ブルセラ症														
ヘンズエラウマ脳炎														
ヘンドラウイルス感染症														
発しんチフス														
ボツリヌス症														
マラリア														1
野兔病														
ライム病														
リッサウイルス感染症														
リフトバレー熱														
類鼻疽														
レジオネラ症	2		2										4	25
レプトスピラ症														
ロッキー山紅斑熱														
アメーバ赤痢	1	1											2	10
ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）														2
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2	2	1										5	41
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)														
急性脳炎*4	1												1	3
クリプトスポリジウム症														
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	2											3	2
劇症型溶血性レンザ球菌感染症			2										2	11
後天性免疫不全症候群	1												1	4
シアルシニア症														1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1			1									2	5
侵襲性髄膜炎菌感染症														
侵襲性肺炎球菌感染症	4	2	2	1									9	28
水痘（入院例に限る。）														3
髄膜炎菌性髄膜炎														
先天性風しん症候群														
梅毒	3	11	11	3									28	95
播種性クリプトコックス症														3
破傷風														2
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症														
バンコマイシン耐性腸球菌感染症														3
百日咳														3
風しん														
麻疹														
薬剤耐性アシネトバクター感染症														1
*5 新型コロナウイルス感染症*6	31,474	5,934	2,406	864									40,678	331,709

(\*1)病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。(\*2)病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。(\*3)病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

(\*4)ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ヘンズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。(\*5)分類名は「新型インフルエンザ等」

(\*6)病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。



## 第14週(4月3日～4月9日) トピックス: <梅毒>

現在、日本における梅毒の報告数が急増しています。2022年の全国における梅毒報告数は13,225例と感染症法施行以来最多でしたが(図1)、本年は今週までに男性で累計2,455例、女性で累計1,330例が報告されており、昨年を上回る勢いで増加しています。昨年同時期と比較すると、男性は1.29倍、女性は1.49倍になっており、全体に占める割合は少ないものの、女性の方が増加傾向が強くなっています。

京都市では2022年に95例が報告され、全国と同様に感染症法施行以来最多でしたが(図2)、本年は第14週に梅毒の報告が3例あり、累積報告数は28例(男性17例、女性11例)となり、昨年同時期と比較して男性は4例増加しています。女性は同数ですが、2022年における女性の報告数は2021年から1.45倍になっており、今後増加する可能性も否定できません。

梅毒は、感染症法における5類全数把握感染症であり、同法第12条で「診断した医師は7日以内に届出を行わなければならない。」とされています。梅毒に感染すると、約3～6週間の潜伏期の後、感染部に痛みのない初期硬結等がで(早期顕症I期)、さらに4～10週間経つと全身性に症状が現れます(早期顕症II期)。早期顕症の間は自然に症状がなくなりますが、治療せず放置すると、数年～数十年後に大動脈瘤や神経麻痺等の重篤な症状を引き起こすこともあります(晩期顕症)。

梅毒は症状の発現や消失を繰り返し、多彩な症状を示すことから、患者が自然治癒したと勘違いしたり、性感染症と疑わないことがしばしばあります。ここで、診断時における病型(症状の進行度)の推移を見ると、全国では男女ともに症状がある患者の報告が著しく増加しています(図3)。京都市でもばらつきが大きいものの、症状が進んでから発見される傾向が見られます(図4)。このように、自分が梅毒に感染していることに気づかないまま、感染を広げている患者が増加している恐れがあります。梅毒の感染拡大を防ぐためには、ひとりひとりが梅毒を理解し、予防する必要があります。

梅毒は性的接触によって感染するため、感染予防には不特定多数との性行為を避けることや、完全ではありませんが、コンドームの使用が重要です。

京都市では、HIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を無料・匿名(予約制)で実施しています。感染した恐れがある場合には、これらの検査を受けるか、泌尿器科・婦人科等の医療機関を受診しましょう。

- 京都市情報館「梅毒」が過去最大に急増しています！  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000214471.html>
- 京都市情報館「京都市のHIV検査・相談について」  
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000271215.html>

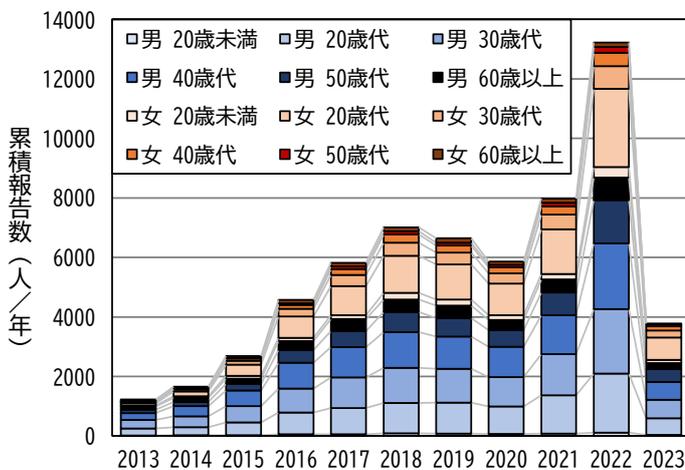


図1. 全国の梅毒累積報告数の推移

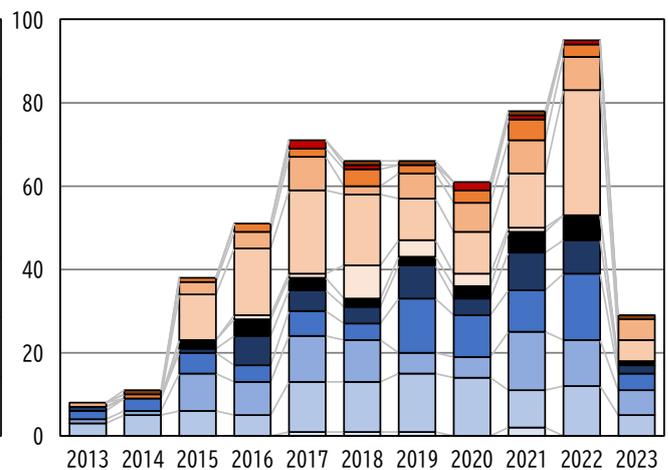


図2. 京都市の梅毒累積報告数の推移

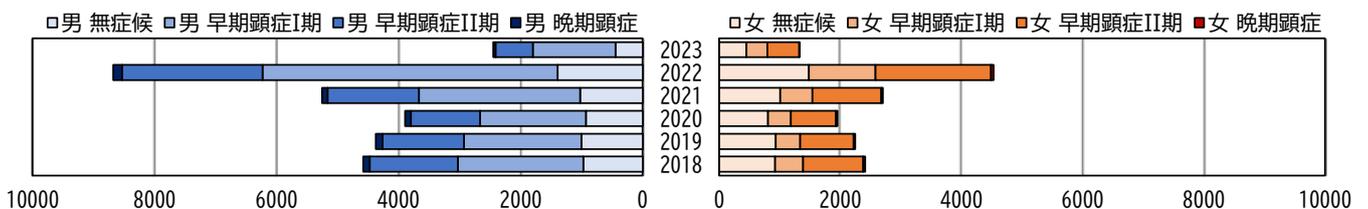


図3. 全国における梅毒の性別・診断時病型別報告数の推移

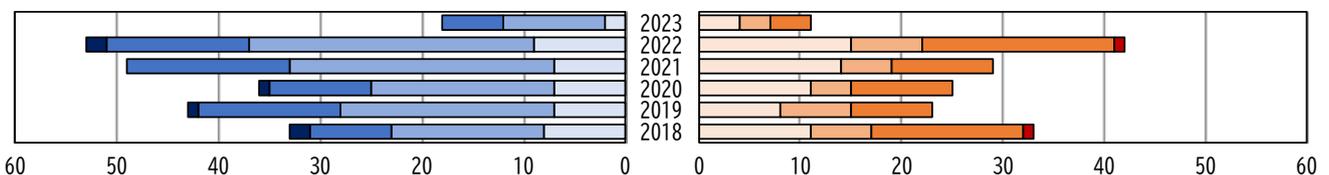


図4. 京都市における梅毒の性別・診断時病型別報告数の推移

※2023年の報告数は、第1週～第14週までを示した。

京都市感染症発生動向調査情報（行政区別）

T3201

2023年 第14週（2023/4/3～2023/4/9）

データ取得日：2023年4月12日

報告数		北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	伏見	西京	京都市計
定点区分	インフルエンザ（定点医療機関数）	7	5	7	5	3	6	2	6	8	11	8	68
	（報告医療機関数）	7	5	7	5	3	6	2	6	8	11	8	68
インフル	インフルエンザ（※1）	7	5	8	1	7	8	-	26	6	14	6	88
小児科	小児科（定点医療機関数）	4	3	4	3	2	4	1	4	5	7	5	42
	（報告医療機関数）	4	3	4	3	2	4	1	4	5	7	5	42
小児科	R Sウイルス感染症	-	-	5	11	3	-	-	-	22	9	4	54
	咽頭結膜熱	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	1	5
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	-	1	-	-	3	-	4	19	3	2	32
	感染性胃腸炎	1	-	12	2	5	7	1	18	22	39	21	128
	水痘	-	-	1	-	-	-	-	-	5	-	-	6
	手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
	伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	突発性発しん	-	-	-	-	-	1	-	1	1	5	-	8
	ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	3
	流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	眼科	眼科（定点医療機関数）	1	1	1	2	...	1	...	...	1	2	1
（報告医療機関数）		1	1	1	2	...	1	...	...	1	2	1	10
眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	-	...	-	...	...	-	-	-	-
	流行性角結膜炎	-	-	-	-	...	-	...	...	-	1	-	1
基幹	基幹（定点医療機関数）	...	...	...	1	...	...	...	...	...	...	...	1
	（報告医療機関数）	...	...	...	1	...	...	...	...	...	...	...	1
基幹	細菌性髄膜炎（※2）	...	...	...	-	...	...	...	...	...	...	...	-
	無菌性髄膜炎	...	...	...	-	...	...	...	...	...	...	...	-
	マイコプラズマ肺炎	...	...	...	-	...	...	...	...	...	...	...	-
	クラミジア肺炎（オウム病除く）	...	...	...	-	...	...	...	...	...	...	...	-
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	...	...	...	-	...	...	...	...	...	...	...	-

定点当たり報告数		北	上京	左京	中京	東山	山科	下京	南	右京	伏見	西京	京都市計
インフル	インフルエンザ（※1）	1.00	1.00	1.14	0.20	2.33	1.33	-	4.33	0.75	1.27	0.75	1.29
小児科	R Sウイルス感染症	-	-	1.25	3.67	1.50	-	-	-	4.40	1.29	0.80	1.29
	咽頭結膜熱	-	-	-	-	-	-	-	0.50	0.40	-	0.20	0.12
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	-	0.25	-	-	0.75	-	1.00	3.80	0.43	0.40	0.76
	感染性胃腸炎	0.25	-	3.00	0.67	2.50	1.75	1.00	4.50	4.40	5.57	4.20	3.05
	水痘	-	-	0.25	-	-	-	-	-	1.00	-	-	0.14
	手足口病	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.29	-	0.05
	伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	突発性発しん	-	-	-	-	-	0.25	-	0.25	0.20	0.71	-	0.19
	ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	0.40	0.14	-	0.07
	流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	-	...	-	...	...	-	-	-
流行性角結膜炎		-	-	-	-	...	-	...	...	-	0.50	-	0.10
基幹	細菌性髄膜炎（※2）	...	...	...	-	...	...	...	...	...	...	...	-
	無菌性髄膜炎	...	...	...	-	...	...	...	...	...	...	...	-
基幹	マイコプラズマ肺炎	...	...	...	-	...	...	...	...	...	...	...	-
	クラミジア肺炎（オウム病除く）	...	...	...	-	...	...	...	...	...	...	...	-
	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	...	...	...	-	...	...	...	...	...	...	...	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

京都市感染症発生動向調査情報（年齢階級別）

T3202

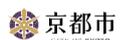
報告数 2023年 第14週（2023/4/3～2023/4/9） データ取得日：2023年4月12日

インフルエンザ定点 (報告医療機関数68)	総数	～6 ヶ月	～12 ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80歳 以上
インフルエンザ(※1)	88	1	1	-	3	10	4	3	1	2	1	3	10	14	12	6	9	2	2	4	-
小児科定点 (報告医療機関数42)	総数	～6 ヶ月	～12 ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20歳 以上						
RSウイルス感染症	54	9	6	17	13	5	3	-	-	-	-	1	-	-	-						
咽頭結膜熱	5	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	-	-	-	1	5	6	7	1	4	-	1	3	1	3						
感染性胃腸炎	128	2	5	15	12	20	15	9	13	4	6	5	12	4	6						
水痘	6	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2	-	2	-	-						
手足口病	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん	8	-	1	4	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ	3	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
眼科定点 (報告医療機関数10)	総数	～6 ヶ月	～12 ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
基幹定点 (報告医療機関数1)	総数	0歳	1～ 4歳	5～ 9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70歳 以上				
細菌性髄膜炎(※2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(オウム病除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

定点当たり報告数

インフルエンザ定点	総数	～6 ヶ月	～12 ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80歳 以上
インフルエンザ(※1)	1.29	0.01	0.01	-	0.04	0.15	0.06	0.04	0.01	0.03	0.01	0.04	0.15	0.21	0.18	0.09	0.13	0.03	0.03	0.06	-
小児科定点	総数	～6 ヶ月	～12 ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20歳 以上						
RSウイルス感染症	1.29	0.21	0.14	0.40	0.31	0.12	0.07	-	-	-	-	0.02	-	-	-						
咽頭結膜熱	0.12	-	-	0.02	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.76	-	-	-	0.02	0.12	0.14	0.17	0.02	0.10	-	0.02	0.07	0.02	0.07						
感染性胃腸炎	3.05	0.05	0.12	0.36	0.29	0.48	0.36	0.21	0.31	0.10	0.14	0.12	0.29	0.10	0.14						
水痘	0.14	-	-	-	-	-	0.02	-	-	0.02	0.05	-	0.05	-	-						
手足口病	0.05	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん	0.19	-	0.02	0.10	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ	0.07	-	-	0.02	0.02	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
眼科定点	総数	～6 ヶ月	～12 ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 以上	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-
基幹定点	総数	0歳	1～ 4歳	5～ 9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65～ 69歳	70歳 以上				
細菌性髄膜炎(※2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎(オウム病除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。  
 ※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。



京都市感染症発生動向調査情報（10週推移）

T3203

報告数 2023年 第4週～2023年 第14週 データ取得日：2023年4月12日

		2023年 第4週～2023年 第14週											
		データ取得日：2023年4月12日											
		疫学週											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
		(10週前)	(9週前)	(8週前)	(7週前)	(6週前)	(5週前)	(4週前)	(3週前)	(2週前)	(1週前)	(今週)	
定点区分	インフルエンザ（定点医療機関数）	69	69	69	69	69	69	69	69	69	69	68	
	（報告医療機関数）	69	69	69	69	69	69	69	69	69	69	68	
インフル	インフルエンザ（※1）	1,925	2,455	2,188	1,933	1,346	947	794	483	300	121	88	
	小児科（定点医療機関数）	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	42	
	（報告医療機関数）	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43	42	
小児科	RSウイルス感染症	7	3	3	-	6	14	16	25	43	53	54	
	咽頭結膜熱	10	6	2	7	9	6	1	4	1	5	5	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46	46	28	59	64	44	53	38	33	50	32	
	感染性胃腸炎	283	246	266	195	227	194	272	264	205	174	128	
	水痘	5	3	2	4	1	6	2	1	7	1	6	
	手足口病	2	5	5	5	-	-	1	2	4	-	2	
	伝染性紅斑	1	-	4	1	-	1	1	1	-	-	-	
	突発性発しん	5	6	4	6	8	9	11	9	5	8	8	
	ヘルパンギーナ	3	3	4	2	1	-	-	-	1	1	3	
	流行性耳下腺炎	1	2	-	1	-	-	1	1	-	-	-	
	眼科	眼科（定点医療機関数）	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
		（報告医療機関数）	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
	眼科	急性出血性結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		-	2	1	-	-	-	-	-	-	4	1	
基幹	基幹（定点医療機関数）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	（報告医療機関数）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
基幹	細菌性髄膜炎(※2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	クラミジア肺炎(オウム病除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

定点当たり報告数

		2023年 第4週～2023年 第14週											
		データ取得日：2023年4月12日											
		疫学週											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
		(10週前)	(9週前)	(8週前)	(7週前)	(6週前)	(5週前)	(4週前)	(3週前)	(2週前)	(1週前)	(今週)	
インフル	インフルエンザ（※1）	27.90	35.58	31.71	28.01	19.51	13.72	11.51	7.00	4.35	1.78	1.29	
小児科	RSウイルス感染症	0.16	0.07	0.07	-	0.14	0.33	0.37	0.58	1.00	1.23	1.29	
	咽頭結膜熱	0.23	0.14	0.05	0.16	0.21	0.14	0.02	0.09	0.02	0.12	0.12	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.07	1.07	0.65	1.37	1.49	1.02	1.23	0.88	0.77	1.16	0.76	
	感染性胃腸炎	6.58	5.72	6.19	4.53	5.28	4.51	6.33	6.14	4.77	4.05	3.05	
	水痘	0.12	0.07	0.05	0.09	0.02	0.14	0.05	0.02	0.16	0.02	0.14	
	手足口病	0.05	0.12	0.12	0.12	-	-	0.02	0.05	0.09	-	0.05	
	伝染性紅斑	0.02	-	0.09	0.02	-	0.02	0.02	0.02	-	-	-	
	突発性発しん	0.12	0.14	0.09	0.14	0.19	0.21	0.26	0.21	0.12	0.19	0.19	
	ヘルパンギーナ	0.07	0.07	0.09	0.05	0.02	-	-	-	0.02	0.02	0.07	
	流行性耳下腺炎	0.02	0.05	-	0.02	-	-	0.02	0.02	-	-	-	
	眼科	急性出血性結膜炎	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		流行性角結膜炎	-	0.20	0.10	-	-	-	-	-	-	0.40	0.10
	基幹	細菌性髄膜炎(※2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	クラミジア肺炎(オウム病除く)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

























